

がんばろう日本

～亀岡市は災害被災地の復興を支援します～

February 2019

広報No.670

キラリ 亀岡

■亀岡市の人口と世帯数

	平成31年 1月23日現在	平成30年 1月24日現在
人口	89,051人	89,711人
内訳	男	43,385人
	女	45,666人
世帯数	38,880世帯	38,706世帯

主な内容

- 1ページ みんなの手で「環境先進都市 亀岡」の実現を～かめおかプラスチックごみゼロ宣言～
- 2ページ 新しい市議会議員24人が決定～本市発展のために活躍を～
- 3ページ 高校生が考えるまちづくり～市長からのミッション～
- 4ページ 未来にむかって、20歳の挑戦～亀岡市成人式／新成人・新年を祝う会～

編集発行:亀岡市市長公室秘書広報課 / 〒621-8501 亀岡市安町野々神8番地 / ☎0771-22-3131(代) ☎0771-24-5501
 ホームページ <https://www.city.kameoka.kyoto.jp> 電子メール office@city.kameoka.lg.jp フェイスブック <https://www.facebook.com/kameokacity>
 LINE@アドレス line://ti/p/@kameokacity ID @kameokacity

亀岡市と亀岡市議会は、自然環境の保全と地域経済の活性化への一体的な取り組みとして「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を行いました。海を汚すプラスチックごみは地球規模の問題であり、世界では、使い捨てプラスチックの削減に向けた動きが加速しています。私たちにできることから取り組み、みんなの手で循環型社会の実現を目指しましょう。

みんなの手で

「環境先進都市 亀岡」の実現を



宣言文を掲げる桂川市長と湊市議会議長(平成30年12月13日)

かめおかプラスチックごみゼロ宣言
2018.12.13



美しい環境を次世代に受け継ごう

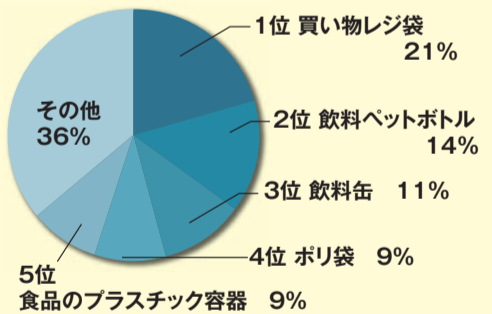
～かめおかプラスチックごみゼロ宣言～

保津川から始まった環境を守る取り組み

亀岡の地に恵みをもたらす豊かな自然のシンボルである保津川の環境美化・保全は、保津川下りの船頭の皆さんの取り組みからスタートし、特定非営利活動法人プロジェクト保津川の「保津川クリーン作戦」(月1回、平成19年から117回実施)などの地道な活動が展開されてきました。一方で世界に目を向けてみると、年々深刻化する海への漂着ごみは、その7割が内陸部から発生していることが分かっており、中でもプラスチックごみが美しい自然環境

保津川のいま

現在、保津川のごみの状況はどのようになっているのだろうか?



保津川における、子ども海ごみ探偵団の漂着ごみ調査(平成30年11月11日実施)ではプラスチック製のごみが上位を占めている。

これから、私たちにできること

ふるさと亀岡の環境を守るため、私たち一人ひとりが一歩を踏み出そう!



皆の力を合わせ、目指そう「環境先進都市 亀岡」!

を破壊し、生き物の生息環境だけでなく、観光資源にも大きな悪影響を及ぼしています。この状況から、プラスチックごみ削減は、地球全体で取り組むべき課題とされています。保津川も例外ではありません。亀岡市では、市民の皆さんや関係団体、市が広くネットワークを構築。平成24年、内陸部の自治体として初めて「海ごみサミット2012 亀岡保津川会議」を開催、国内の関係者約700人が参加する中で「亀岡保津川宣言」

「川のごみや海のごみをとるに考える京都流域宣言」を採択しました。現在は、市内内外15団体が参画する「川と海つながり共創(みんなのでつくろ)プロジェクト」などにより、多くの市民の皆さん、次代を担う子どもたちの参加のもと、本市最大の清掃イベントである「保津川の日」や「こども海ごみ探偵団」などが行われています。

亀岡から発信 プラごみゼロを目指して

環境省が示したプラスチック資源循環戦略では、プラスチック製レジ袋有料化を義務化する方針が固められており、国連も2025年までに、各国でレジ袋やストロー、食器などをはじめとする使い捨てプラスチックの全廃を目指し戦略をつくるとする国連環境計画(UNEP)の閣僚宣言案が明らかになっています。このような社会情勢の中、平成30年12月13日、亀岡市は亀岡市議会とともに「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を行いました。宣言では、保津川から海ごみをなくす取り組みをさらに深化させ、自然環境の保全と地域経済の活性化に一体的に取り組むこととしています。

その第一歩として、レジ袋の有料化とエコバッグ持参率100%を目指し、レジ袋の

全体量の大幅な削減を図ったうえでプラスチック製レジ袋の使用禁止に向けて、条例による規定という形で社会のルールづくりを進めていくこととしています。

プラスチックごみゼロに向けた取り組みは、何よりも市民の皆さんや事業者の皆さんのご理解と協力が不可欠です。プラスチックごみによる海洋汚染の問題は、長期的な視野での持続可能な取り組みを続けていかなければ、解決できるものではありません。そのためにも「環境保全」と「地域の活性化」が一体となつたまちづくりを進めていく必要があります。

使い捨てのごみを抑制し、循環型社会の実現を目指すためには、一人ひとりの意識、行動をつなげることで大きな動きを創り出すことが求められています。皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。